

大会名称: 第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

バスケットボール競技

開催場所: 神戸市立中央体育館 Gコート

試合区分: No. 441 少年女子 準々決勝

期 日: 2006(H18)年10月3日(火)

主審: 山内 俊幸

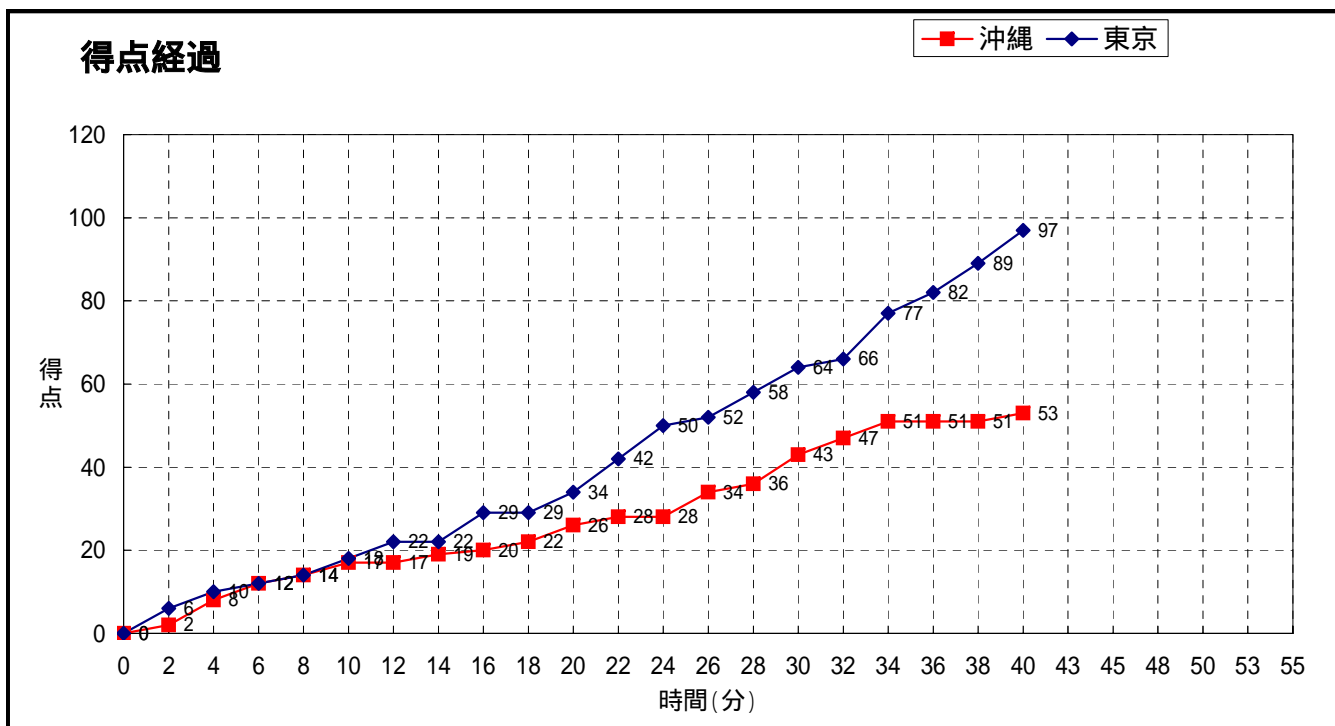
開始時間: 13:30

副審: 永山 忠利

終了時間: 14:50

東京						97						53						沖縄					
(関東)																		(九州)					
						18 -st1- 17																	
						16 -2nd- 9																	
						30 -3rd- 17																	
						33 -4th- 10																	
						-OT1-																	
						-OT2-																	
						-OT3-																	
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F								
4	*	有山 景子	10	1	3	1	2	4		新垣 純	2	0	1	0	0								
5	*	山田 菜美	6	0	2	2	2	5	*	奥里 綾子	6	0	3	0	1								
6	*	飯野 菜季	13	0	6	1	0	6		徳村 愛世	0	0	0	0	0								
7		鈴木 裕子	7	0	3	1	0	7	*	松田 華子	2	0	1	0	1								
8		川村 美穂	8	2	1	0	1	8	*	松井 裕架	8	0	1	6	3								
9		中島 ひろみ	0	0	0	0	0	9		野原 三奈代	0	0	0	0	1								
10		大伴 菜奈	6	2	0	0	1	10	*	照喜名 美幸	6	0	3	0	2								
11	*	本田 雅衣	9	1	3	0	3	11	*	兼田 麻衣子	6	0	3	0	5								
12		光山 慈能	4	0	2	0	0	12		古堅 夏美	5	0	2	1	1								
13	*	天野 佳代子	14	0	5	4	1	13		仲嶺 絵里	10	0	5	0	1								
14		清水 愛咲美	7	0	3	1	0	14		崎山 芙美乃	0	0	0	0	2								
15		間宮 佑圭	13	0	6	1	1	15		金城 理奈	8	0	4	0	1								
コーチ		下坂 須美子						コーチ		安里 辰雄													
		合計	97	6	34	11	11			合計	53	0	23	7	18								

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファール



ゲームレポート

第1ピリオド、両チームオールコートのマンツーマンディフェンスでスタート。開始直後、沖縄は#10照喜名のカットインで得点。対する東京は#13天野のゴール下のシュートで応戦する。沖縄は#8松井からくり出す速く多彩なパスを中心にゲームをつくり、東京の高いディフェンスに対抗する。東京は#13天野にボールを集めポストからのプレーを展開するが、沖縄の集中力のある守りに苦戦し、なかなかゴールを決められない。このピリオド残り1秒、沖縄#12古堅がファウルからのフリースローを決め、18-17と東京リードで終了した。

第2ピリオド、沖縄はディフェンスを3-2のゾーンに変え、パスカットをねらうが、東京の速く組織的な攻めに対し機能しない場面が増えてきた。沖縄は、#8松井を中心に、自分達のリズムを取り戻そうと積極的なプレーを重ねるが、東京#5山田、#13天野を中心とする高さをいかしたプレーに苦戦を強いられる。残り1分、東京#4有山の3Pシュートが決まり、徐々に東京ペースになりつつあったが、ファウルが重なり、最後まで互角の展開になる。結局34-26と東京のリードで前半を終了した。

第3ピリオド、東京は#15間宮が出したパスを、#5山田がシュートにつなげて得点し、先手を取った。沖縄は持ち前の運動量で対抗し、#8松井と#13仲嶺がボールをゴール下までつなごうとするが、ことごとくスティールされ、逆に東京の得点につながった。開始3分、沖縄はタイムアウトを取り、流れを断ち切ろうとするが、東京が#12光山の正確なシュート、#15間宮のゴール下などで少しずつ点差を広げる。残り5分、東京が52-32と20点のリード。高さを生かしたプレーを続ける東京に対して、沖縄は厳しいディフェンスと速い攻撃で対抗するが、リバウンドとシュートに正確さが勝る東京にペースを握られたまま、第3ピリオドは終了した。

第4ピリオド、東京はメンバー交代してからも攻撃の手を緩めなかった。東京は#6飯野を中心に、#14清水らの得点で、さらに点差を広げる。沖縄は、2-2-1のゾーンプレスで積極的にしかけていくが、逆に東京がブラインドサイドをしっかりと攻め、自分たちのペースを手放さない。東京は、#10大伴の遠い位置からの3Pシュートも決まり、97-53で勝利をおさめた。

担当者: 小齊平 憲男 (兵庫県バスケットボール協会)

(財)日本体育協会・(財)日本バスケットボール協会